

京都の“木”とICTの“目”でつながる“心” ～林福連携「京想(きょうそう)」 プロジェクト～

チームKyo-So（共創し、協奏し、京想する）



チームKyo-So

(共創し、協奏し、京想する)

京都市×学生・先生×林業家×福祉法人
民間企業（IT、環境系等）×農家×NPO
地域おこし協力隊×アーティスト

取り組む課題

**森林・林業の持続可能な
未来と地域振興**



京都市のイメージと言えば・・・

寺社仏閣？
舞妓さん？
京都タワー？

京都市






ほぼ森

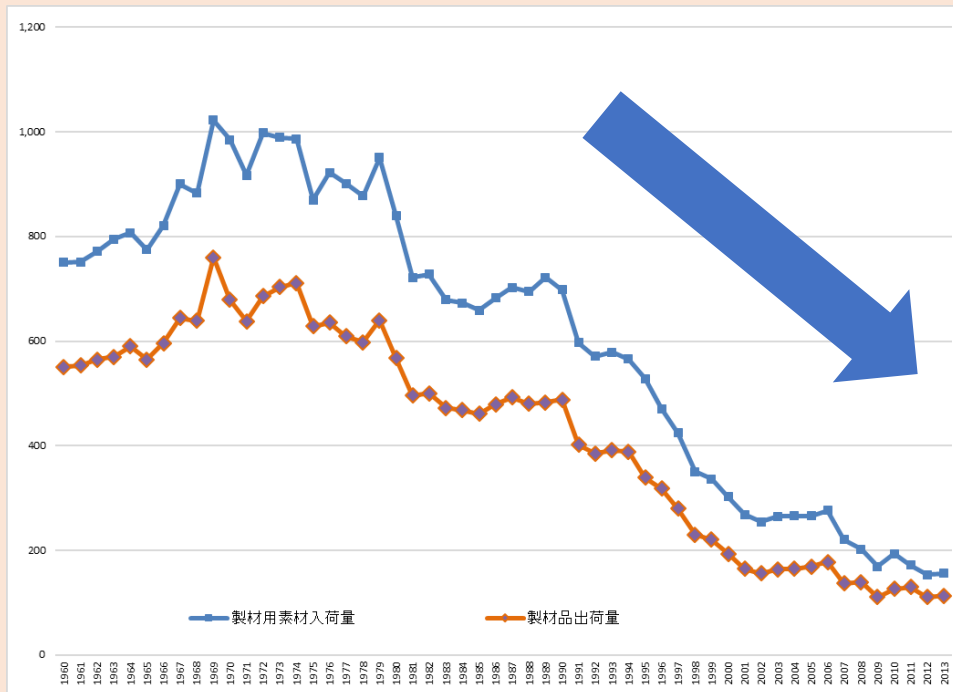
市街地は
だいたい
この辺

京都市

実は京都市の面積の
約74%は森林です
(京都市森林統計)



**しかし、今京都の山間地は
ピンチに陥っています！**



製材の出荷量も入荷量も減少の一途

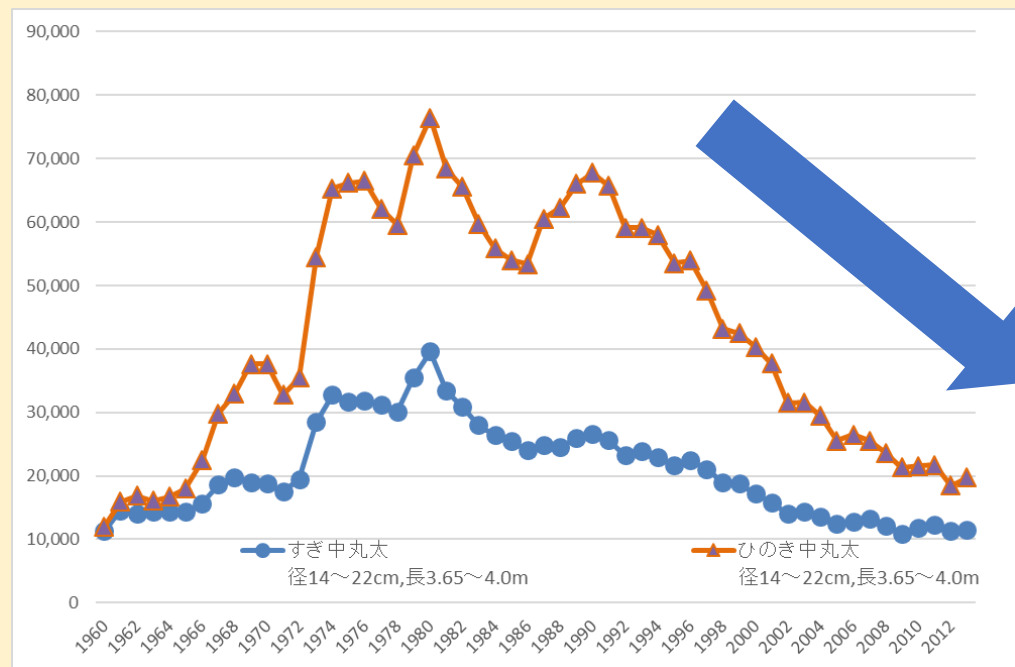
(農林水産省 木材統計調査より)

ピーク時から8割以上減 (※京都府、製材品 入出荷量)

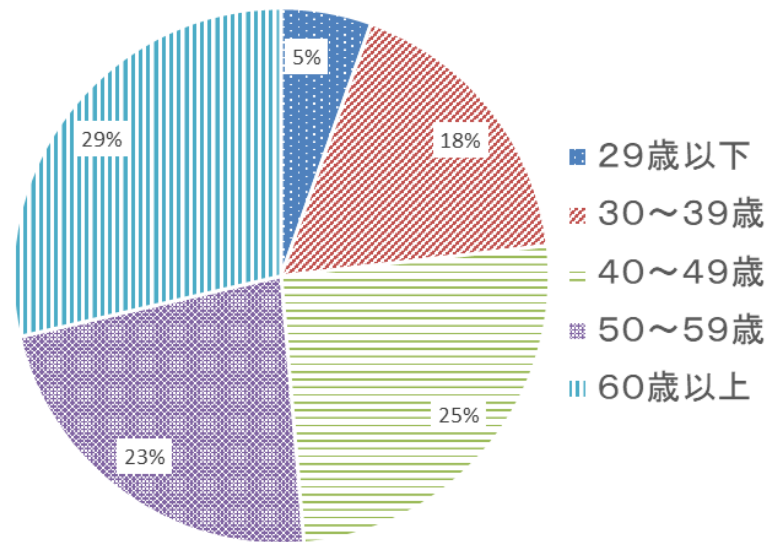
製材用素材は大幅下落

約4万円⇒約1万円へ

(※全国、杉中丸太、1立米当たり)



森林組合 年齢階層別雇用労働者数(京都府)



京都の林業従事者は減少し、高齡化

(農林水産省 森林組合統計より)

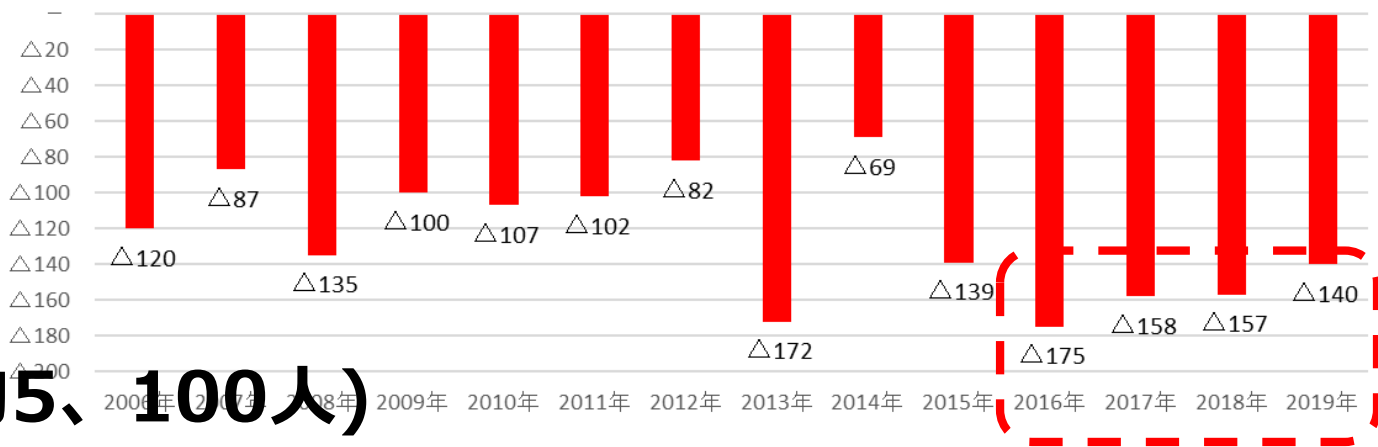
京都府 40歳以上の林業従事者が約8割

林業で栄えた地域は 人口減を続ける

人口5、000名の地域で、
毎年150人規模が減少

(※H27年国勢調査で京北の人口約5、100人)

人口増減





徹底的に現場へ足を運び、 生の声（定性データ）を集め



日付	活動内容/場所	リサーチ対象	リサーチャー
9/11	フィールド調査（地域課題ヒアリング） 場所：京北地域全域	地域の方（自治会長、旅館女将、農家民宿経営者、農業従事者、地域おこし協力隊）等	チームメンバー（IT企業社員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、学生等）
10/8	チーム立ち上げワークショップ 場所：京北地域全域	参加者：チームメンバー（京北地域の林業家、アーティスト、福祉法人職員、研究所職員、フリーランス、学生、行政職員、新聞記者、非営利団体職員等）	チームメンバー（IT企業社員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、学生等）
10/23	フィールド調査（森林実習の視察） 場所：北桑田高校森林科	北桑田高校 森林リサーチ科実習生、教員	チームメンバー（研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等）
11/13	フィールド調査（地域課題ヒアリング） 場所：コトバタES	地域の方々・林業家・地域おこし協力隊	チームメンバー（研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等）
11/21	フィールド調査（現地視察） 場所：京北銘木協会	京北銘木協会 会長 複数名の地域の林業家	チームメンバー（研究所職員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、学生等）
11/29	フィールド調査（木工実習ヒアリング、林業作業現場視察）	北桑田高校森林リサーチ科実習生、教員	チームメンバー（研究所職員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、大学職

のべ100名以上の人と対話を実施

**行政・民間企業（IT・環境系等）
地域の方々・林業家・林業科の高校生・先生
地域おこし協力隊・NPO法人理事
地域のアーティスト・福祉法人職員**

その結果見えてきた真の課題

森と街のつながりの希薄さ

生産者と消費者のつながりの希薄さ

地域の人と人のつながりの希薄化

わたしたちのアイデア

- ① 「林福連携」の木工製品の企画・販売
- ② ICTで見える化し、働く場の「つながり」促進
- ③ 作り手と買い手、森と街、高齢者と若者がつながる、新しい関係性の創出

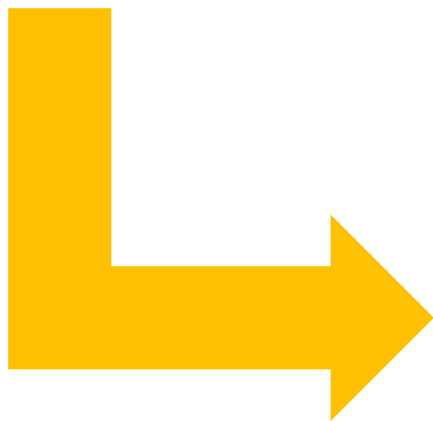
＝「京想プロジェクト」

①

林福連携による 木工製品の企画販売



木材



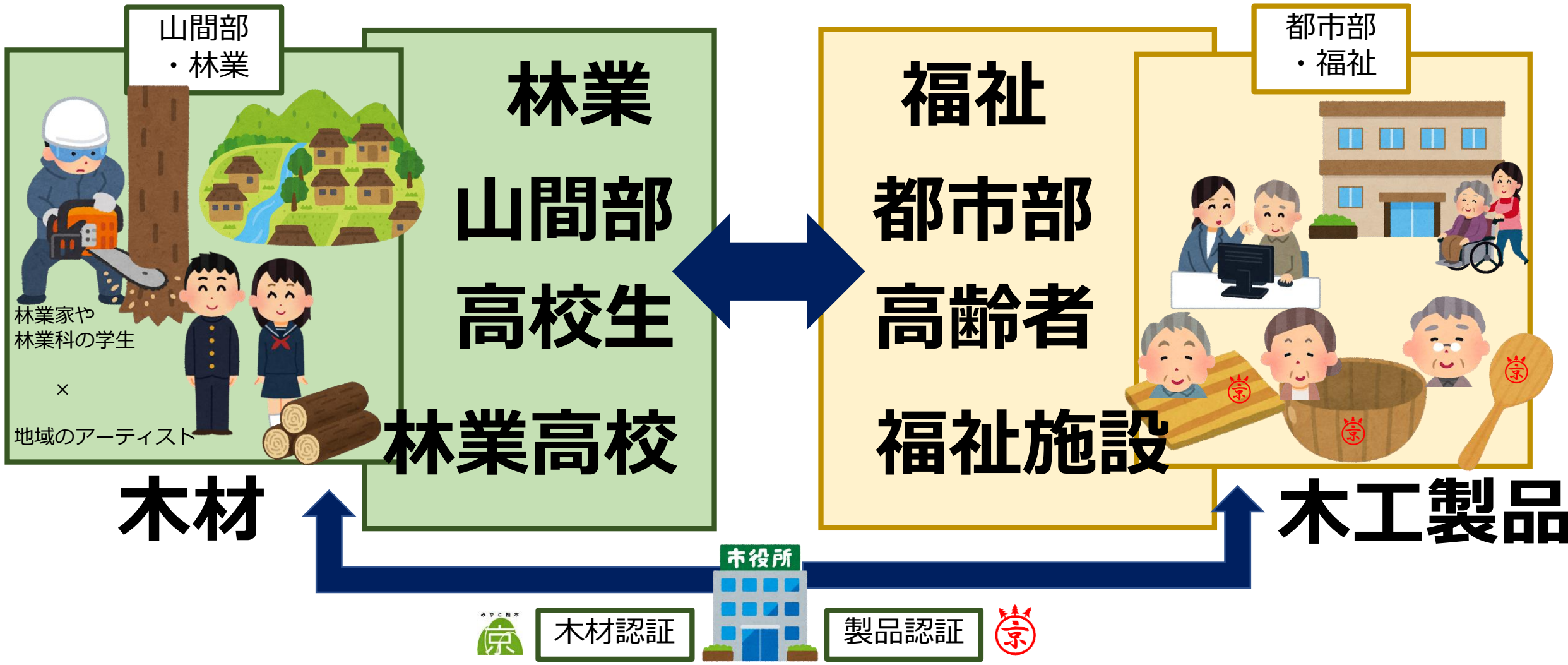
木工
製品



実施すること

①

山間部と都市部、世代間のつながりをつくる
「林福連携」の木工製品の企画・販売



② ICTで生産工程の見える化



実施すること

②

ICTで生産工程をすべて 見える化し、工程などを管理



素材⇒生産に関わるすべての行動を可視化

③

SNSで 作り手と買い手を 双方向でつなげる



デザイン／製作
○年○月○日～
○年○月○日

きれいな木目が見えるようデザインにこだわりました！



磨き／仕上げ
○年○月○日～
○年○月○日

ひと月かけて丁寧に磨きました。手触りを楽しんで下さい。

購入場所：○○カフェ
購入日：○年○月○日
購入動機：ひとめぼれ



とっても丁寧なつくりで使い
やすいです！小さいサイズも
あると嬉しいな。

実施すること

③

SNSを通じて、作り手と買い手が「つながる」双方向の情報共有システム



消費者



デザイン／製作
○年○月○日～
○年○月○日

きれいな木目が見えるようデザインにこだわりました！



磨き／仕上げ
○年○月○日～
○年○月○日

ひと月かけて丁寧に磨きました。手触りを楽しんで下さい。

購入場所：○○カフェ
購入日：○年○月○日
購入動機：ひとめぼれ



とっても丁寧な作り方で使いやすいです！小さいサイズもあると嬉しいな。



積み木を長く、
大切に使おう！

愛着の醸成

地域への興味

週末に、京都市北部に
行ってみよう！



誰がつくったか
見えるので安心！

安心感の醸成



生産者のやりがい

もっと頑張ろう！



アイデア実現に向けたプロセス

3つのこだわり

持続可能性

「つながり」によるイノベーション

徹底した現地主義、人主義

アイデア実現に向けたプロセス

2019年度

2020年度

2021年度～

① 「林福連携」の木工製品の企画・販売

現地視察
アイデアづくり
仲間づくり

完了!

・ 高校・介護施設連携の木工プロジェクト始動!
・ 京都市認証制度導入へ

着手中!

調整中!

・ ビジネスセクターによる地域産業化
・ 他自治体、他介護事業者等へのモデル横展開

② ICTで見える化し、働く場の「つながり」促進

関係者への聴き取り、調査
高齢者福祉施設での実証実験

完了!

実証実験継続
→ビジネスユースへの連携

調整中!

働き方改革×データ利用のモデルケース化

③ 作り手と買い手、森と街、高齢者と若者がつながる、新しい関係性の創出

・ 地域住民、消費者のニーズ
シーズ調査
・ SNS企業連携

完了!

SNSポータルを立ち上げ
情報発信
※行政とも連携

調整中!

京都市山間地域、
京都産木材ファン
(関係人口)の増加

京都市からの応援 メッセージ




**データが、
心や物理的な距離を近くする**



**この林業の課題を
京都だけで終わらせない**

**本事業で得られるデータは
公益に使えるオープンデータへ**





**林業の未来を京都から、Kyo-Soする。
（共創し、協奏し、京想する）**

想



**ご清聴いただき、
ありがとうございました。**